

建設環境常任委員会

8議案 可決

行田市印鑑条例の一部を改正する条例

問 現在、本市の電子申請サービスは、187の手続きが可能となっているが、新たに印鑑登録証明書を含め、来庁しないで手続きが可能となるものは、いくつあるのか。

答 本年4月から拡充される手続きは22の手続きである。

行田市防災会議条例の一部を改正する条例

問 防災と水防の審議体制や計画が一体化されることは、よいことであるが、水防法に



建設環境常任委員会委員

道路・橋りよりの建設や管理、上下水道事業、環境、商工業、農業、観光、防災、市民生活に関することなどの議案等を審査しています。

基づく水防計画など、水防法との関係は問題ないのか。

答 内閣府より地域防災計画及び水防計画の策定事務等の簡素化に関する通知があり、両計画を一体化する方法が明示されているため問題ない。

行田市道路線の認定について

問 今回、市道認定する県道弥藤吾・行田線は、新道建設事業である常盤通・佐間線の完成後に県から引き継ぐとのことであるが、完成の時期はいつか。

答 埼玉県からは、完成まで約10年と聞いている。

問 なぜ、10年後のことを今、審議しなければならないのか。

答 埼玉県と覚書を締結しており、その中で、県が事業着手をする予定年度を明示し、市は県が事業着手する前年度までに現道の市道認定を行うこととなっている。なお、新道完成までの10年間は、県が維持管理等を行っていく。

問 秩父鉄道行田市駅の踏線橋を市道認定することだが、今まではどのような取り扱いだったのか。

答 駅の北口と南口を結ぶ連絡用通路として管理しており、今回、修繕工事を実施するに当たり、国の道路メンテナンス事業補助制度を活用するため、市道認定しようとするものである。



行田市駅踏線橋

令和4年度行田市交通災害共済事業費特別会計予算

問 会費収入について、昨年度の会費の徴収方法は、新型コロナウイルス感染症対策のため、従来どおり自治会で取りまとめる方法と個人で市役

所の窓口で納付する方法とを自治会ごとに選択できるようにしていたが、本年度も同様の取り扱いとした上で、4万人分を見込んでいるのか。

答 令和3年度は、年度途中であるため、加入者数が確定している令和2年度の3万9492人を基に予算計上している。

令和4年度行田市水道事業会計予算

問 給水する水量と料金として収入のあった水量との比率である有収率が91%であるが、他の水道事業体と比べると高い数値になるのか。

答 県内の平均は約92%であり、平均に近い数値である。

問 有収率を高める目標はあるのか。

答 継続的に老朽管の更新工事を進めるとともに、個人の給水に係る修繕も進めていく。

令和4年度行田市一般会計予算

○生活路線バス運行事業

問 熊谷駅・大塚路線バス利用促進協議会負担金について、昨年度と比べ約3倍に増額しているが、他の熊谷駅発着のバス路線と比較調査したのか。

答 他の路線の調査はしていないが、大塚線については、赤字額が約1800万円で、その半額を熊谷市と按分して、本市が約40%、熊谷市が約60%を補助している。

○地域防災計画改訂事業

問 地域防災計画を改定する理由は。

答 現在の計画は平成27年度に策定したもので、今回の改訂は、関係法令との整合性や昨今の風水害など、新たな被災経験から得た課題など、より実効性の高い計画として、防災対応力の向上を図るため、改訂しようとするものである。

○出水対策事業

問 埼玉県が行う忍川浸水対策重点地域緊急事業と連携し、校庭貯留施設を整備するが、どれくらいの効果を見込んでいるのか。

答 小学校の校庭を活用し、雨水流出抑制を図るため、今回、忍小学校、南小学校、西小学校、泉小学校の4校で計画的に事業を推進し、合計約4200立方メートル、25メートルプールに換算すると、約7杯分の水を貯留することができるようになる。